

# ディベートによる「聞くこと」の力の向上の有効性

西岡省吾\*・片桐史裕\*\*

(令和2年8月31日受付；令和2年12月17日受理)

## 要 旨

ディベートの実践が、「聞くこと」の力の向上に有効であることを検証するために、リスニングテスト、ディベートの内容をメモしていくフローシートの記述内容、そしてディベート中にどのような質問や反駁をするのか考える時間である作戦タイム、また、ジャッジが勝敗を決めるために検討する時間中の発話の分析を行った。作成したリスニングテストについては「批判的に聞くこと」の評価項目の一部で有意に上昇していたことが明らかになったものの、問題を事前と事後で変えたところで大きく正答者数に差が出たことから妥当性に欠けるということが明らかになった。また、フローシート記述からは「根拠を聞き取る」力の向上が見られ、発話分析からは相手の足りない所を聞く「意見や主張を支える根拠として挙げられる事実」に、過不足がないかどうかを判断して聞き取る「聞くこと」の力の向上が見られ、ディベートは「聞くこと」の力の向上に有効であることが部分的に明らかとなった。

## KEY WORDS

ディベート、高等学校、聞くこと、批判的に聞く、国語

## 1 はじめに

高等学校学習指導要領<sup>(1)</sup>の国語表現においては「話すこと・聞くこと」の指導事項として、「聞き取ったことの情報」を吟味して自分の考えを広げたり深めたりすること」を示しており、「聞くこと」の力の育成を求めている。

だが、国語科においては「聞くこと」の指導が十分ではない現状がある。滝浪(2013)<sup>(2)</sup>は、「話すこと・聞くこと」の指導は不十分のまま、学習活動の充実の中でのみ、育成されてきた感がある。」と述べている。また、神田(2013)<sup>(3)</sup>は、「聞くこと」の指導が十分でない現状は、国語科教員が「話すこと・聞くこと」の指導に苦手意識を持っているからであるとし、その原因の1つとして、評定や評価が難しいという問題があると述べた。音声言語は、記録に残しづらいという点でも「聞くこと」の評価は難しいものであるが、高橋(1994)<sup>(4)</sup>は「聞くこと」の評価について、「評価表を活用するなどし、それに基づき、観察法や質問紙法、生徒の相互評価などといった多角的で多様な評価が必要である」と述べている。ここで、「聞くこと」の力を客観的に評価できる1つの方法として、テスト法が挙げられる。尾木・町田(2008)<sup>(5)</sup>は、リスニングテストを「聞くこと」の評価として用いることについて、「的外れなことではなければ効果を発揮するのである。テスト法のみであってよいとは思わないが、実際的な一つの方法である。」と述べている。

また、「聞くこと」の指導が遅れている現状を受けて様々な実践が行われている。石川(2000)<sup>(6)</sup>は、子どもたち同士でインタビューをさせ、その結果、インタビューする側に「主体的に聞くこと」の力が養われたと報告している。梅下(1980)<sup>(7)</sup>は、「筋道の立った話し方」と「相手の意見に耳を傾ける態度」の力を育成するため、子どもたちに話題を選定させ、その話題について、解決するために問答を行うという実践を行った。その結果、「相手の言ったことをとっさに理解し答えることの難しさに気付いた」などといった、相手の意見をしっかり聞こうとする態度の振り返り記述が見られたと述べている。だが、いずれの実践も生徒の振り返り記述や会話分析のみの分析であり、主体的に聞くといった態度の面での実践である。つまり、聞いた内容を吟味し、批判的に考えるなどといった能動的な「聞くこと」の力を育む実践ではない。

ここで、能動的に「聞くこと」の力を育む実践としてディベートが挙げられる。日本ディベート協会(2019)<sup>(8)</sup>は、ディベートを行うことで身につくスキルとして、問題意識を持って聞く能力である「傾聴力」を挙げている。また、高橋(1994)<sup>(9)</sup>は、ディベートの実践は「批判的に判断して聞く」態度を養うのに適している手法であると述べている。その中でも、ディベートで「聞くこと」について言及している先行研究として、渡邊(2016)<sup>(10)</sup>の、ディベートに

\*上越教育大学(専門職学位課程) \*\*学校教育学系

よって身につく力を検討した研究がある。「ディベートの実践により聞き取りのポイントを獲得していった」との結果はあるが、生徒の振り返り記述のみで分析しており、学習者が「聞くこと」の力をつけていく学習の過程の分析はされていない。また、ディベートの実践において、リスニングテストや、学習者の発話をもとに「聞くこと」の力を把握しようとしている研究は見当たらない。

### 1. 1 本研究の目的

本研究の目的は、ディベートの授業実践により、学習者の「聞くこと」の力がついていく学習過程を、フローシート、発話記録、リスニングテストによって検証し、明らかにすることである。また、作成したリスニングテストが「聞くこと」の力の評価として、妥当性があるかどうかについて検討する。

## 2 調査対象について

実践対象：県立高等学校商業科 第3学年 「国語表現」選択者30名

調査時期：2019年10月

授業実践：第3学年、第一学習社『国語表現』「ディベート」10時間

単元計画：全10時間の学習内容を示す（表1）。

表1 各時間の学習目標

時	学習目標
第1時	ディベートのフォーマットを理解することができる。
第2時	ミニディベートでメモを取りながら相手の話を聞き、立論に対して反論ができる。
第3, 4時	情報を収集して、主張、根拠、理由の筋道が立っている立論を準備することができる。
第5, 6時	話し手の考えの流れを辿りながら、意見の根拠や論理性を批判的に聞き取り、反論をしたり、疑問点を持つたりすることができる。(ディベート1, 2回目)
第7時	情報を収集して、主張、根拠、理由の筋道が立っている立論を準備する。
第8, 9時	話し手の考えの流れを辿りながら、意見の根拠や論理性を批判的に聞き取り、反論をしたり、疑問点を持つたりすることができる。(ディベート3, 4回目)
第10時	ディベートのフローシートを主張、根拠、理由を区別しながら記入することができる。

1クラス30名を10の班に分け、教室でディベートの試合を3つ同時進行で行い、次のように、肯定側、否定側、ジャッジをディベートごとにローテーションで全て行う（表2）。

表2 ディベートの試合のローテーション

	試合A		試合B		試合C	
	肯定側・否定側	ジャッジ	肯定側・否定側	ジャッジ	肯定側・否定側	ジャッジ
ディベート1回目	1班vs.2班	3班	4班vs.5班	6班	7班vs.8班	9, 10班
ディベート2回目	2班vs.3班	1班	5班vs.6班	4班	8班vs.10班	7, 9班
ディベート3回目	3班vs.7班	2班	6班vs.1班	5班	10班vs.9班	4, 8班
ディベート4回目	7班vs.2班	3班	1班vs.5班	6班	9班vs.4班	8, 10班

ディベートのタイムテーブルは以下の通りである（表3）。

表3 ディベートのタイムテーブル

①肯定側立論	3分	⑧作戦タイム	2分
②作戦タイム	3分	⑨否定側反駁	3分
③否定側質疑	3分	⑩作戦タイム	2分
④作戦タイム	3分	⑪肯定側反駁	3分
⑤否定側立論・反駁	3分	⑫ジャッジを考える時間	5分
⑥作戦タイム	3分	⑬ジャッジ	5分
⑦肯定側質疑	3分	計	41分

### 3 調査 (1)

#### 3.1 目的

評価方法としてのリスニングテストの「聞くこと」の力の評価としての妥当性を検証すること。

#### 3.2 調査方法

事前と事後でリスニングテストを行い、評価方法としての妥当性を検証する。なお、リスニングテストの作成にあたり高橋(1994)<sup>(4)</sup>が作成した、「批判的に聞くこと」の評価項目(表4)を元にリスニングテストを事前と事後で作成した。(表5)リスニングテストの実施は、問題文をすべて授業者が読み上げる形式で行った。

表4 批判的に「聞くこと」の評価項目

- ①相手が、意見や主張の根拠としている事実を、ほんとうに客観的な「事実」として認めてもよいかどうかを判断して聞き取ること
- ②根拠としている事実相互の間に矛盾がないかどうかを判断して聞き取ること
- ③相手の意見や主張と、根拠としている事実とが、論理的に正しく結ばれているかどうかを判断して聞き取ること
- ④意見や主張を支える根拠として挙げられる事実に、過不足がないかどうかを判断して聞き取ること
- ⑤相手が提示している意見や主張は、一般的に正しいものとして受け入れられるかどうかを判断して聞き取ること
- ⑥相手が提示している意見や主張は、一般的に妥当なものとして受け入れられているかどうかを判断して聞き取ること

表5 リスニングテストの内容(プレテスト)

【評価項目①】相手が、意見や主張の根拠としている事実を、ほんとうに客観的な「事実」として認めてもよいかどうかを判断して聞き取る

問1 読み上げられる表現のうち、最も客観的な事実として思えるものはどれでしょうか。1つ選んでください。

- A) タバコをたくさん吸っている人でも長生きしている人はいるから、タバコを吸っても影響はない。
- B) タバコは体に悪いのは、周知の事実であるし、吸ってない人にも悪影響を及ぼすと聞いているので吸わないほうが良い。
- C) 厚生労働省が行った、35,000人を対象の調査では、喫煙者は非喫煙者よりも生存率が23パーセント下がり、寿命も10年短くなるという結果が出ているからタバコは吸わないほうが良い。

答え C)

【評価項目②】根拠としている事実相互の間に矛盾がないかどうかを判断して聞き取る

問2 読み上げられる文章のうち、最も矛盾が生じていると思われるのはどれでしょうか。1つ選んでください。

- A) あなたの靴には赤い砂がついている。あの学校は校庭が赤い土でできているので、きっと学校にいったのだろう。
- B) 帰宅したら引き出しがすべて開けられていた。きっと泥棒がはいったのだろう。
- C) お腹がいたい。きっと腕を怪我してしまったからだろう。

答え C)

【評価項目③】相手の意見や主張と、根拠としている事実とが、論理的に正しく結ばれているかどうかを判断して聞き取る

問3 読み上げられる文章のうち、根拠としている事実と、意見が最も正しく結ばれていると判断できるのはどれでしょうか。1つ選んでください。

- A) 論理的でない人は理屈っぽくない。理屈っぽくない人は議論を好まない。それゆえ、論理的でない人は議論を好まない。

- B) すべてのペンギンは鳥だ。ペンギンでないものは鳥ではない。よって鳥ではないものはペンギンではない。  
 C) イワシは魚である。泳げないものは魚ではない。それゆえイワシでないものは泳げない。

答え B)

【評価項目④】意見や主張を支える根拠として挙げられる事実、過不足がないかどうかを判断して聞き取る

問4 読み上げられる意見を聞き、根拠として成立していない点を示して反論をしてください。

「日本人は働きすぎだ。というのも、欧米と比較してみると、日本人の労働時間のほうがずっと長いのだ。」

答え(例)

- ・欧米の労働時間が少なすぎるのかもしれない
- ・労働時間が長くても労働の負担は少ないかもしれない。それゆえ、欧米の国とも比較するべきであるし、労働内容も調べる必要がある。

問5 読み上げられる意見を聞き、反論として最も適切なものを1つ選んでください。

「わが社の新しい釣り竿『魚の友』は最新の飛行機に用いられている特殊合金を100%用いた最新式の釣り竿です。たった数万円高だけでこの釣り竿が手に入るのに、旧式の釣り竿を求める必要があるのでしょうか。」

- A) 釣り竿がなぜ『魚の友』なのかということを述べていない。  
 B) 『魚の友』の重量を具体的に述べていない。  
 C) 特殊合金が釣り竿に使われる必要性を述べていない。

答え C)

【評価項目⑤】相手が提示している意見や主張は、一般的に正しいものとして受け入れられるかどうかを判断して聞き取る

問6 読み上げられる文章のうち、最も正しいものとして受け取れるものはどれでしょうか。1つ選んでください。

- A) これは見た目が明らかに鉄である。これは鉄だ。  
 B) 磁石にくっつくし、金属光沢もみられる。これは鉄だ。  
 C) さび臭いし、母親も鉄と言っている。これは鉄だ。

答え B)

【評価項目⑥】相手が提示している意見や主張は、一般的に妥当なものとして受け入れられているかどうかを判断して聞き取る

問7 読み上げられる意見のうち、最も妥当なものとして受け入れられるものはどれでしょうか。1つ選んで妥当だと思う理由を記してください。

- A) 文化祭のクラスの出し物について、40人クラス全員で多数決をとったところ、10人がお化け屋敷をやりたいという結果がでて、一番票が集まった。だからクラスの出し物はお化け屋敷にする。  
 B) 文化祭のクラスの出し物について、40人クラスのうち、出席者30人で多数決を取ったところ、18人がお化け屋敷をやりたいという結果が出た。だからクラスの出し物はお化け屋敷にする。  
 C) 文化祭のクラスの出し物について、40人クラスのうち、放課後近くにいた21人に意見を聞いたところ、全員がお化け屋敷をやりたいという結果が出た。だからクラスの出し物はお化け屋敷にする。

答えA)～C) (それぞれの受け取り方によって妥当性は変わる)

A) 多数決の結果だから B) 投票の過半数だから C) 投票はしなくてもクラスの過半数だから

表6 リスニングテストの内容 (ポストテスト ※プレテストから変更したもののみ掲載)

【評価項目②】 根拠としている事実相互の間に矛盾がないかどうかを判断して聞き取る

問2 読み上げられる文章のうち、最も矛盾が生じていると思われるのはどれでしょうか。1つ選んでください。

- A) 彼は自分の宿題は自分でやるべきであると言っているのに、宿題は他の人のを丸写しで提出している。
- B) 彼は自分のことは自分でやるべきと言っている。だが私は、もっと他人に頼ったほうがいいのではないかと思う。
- C) 彼は自分のことは自分でやるべきと言っている。だが他の人に頼ることも重要だと彼は言っている。

答え A)

【評価項目③】 相手の意見や主張と、根拠としている事実とが、論理的に正しく結ばれているかどうかを判断して聞き取る。

問3 読み上げられる文章のうち、根拠としている事実と、意見が最も正しく結ばれていると判断できるのはどれでしょうか。1つ選んでください。

- A) 赤い液体は水に溶けなかった。アルコールは水に溶ける。だから赤い液体はアルコールではない。
- B) 赤い液体は水に溶けなかった。アルコールは水に溶ける。だから赤い液体は水ではない。
- C) 赤い液体は水に溶けなかった。アルコールは水に溶ける。だから赤い液体はアルコールである。

答え A)

【評価項目④】 意見や主張を支える根拠として挙げられる事実に、過不足がないかどうかを判断して聞き取る

問5 読み上げられる意見を聞き、反論として最も適切なものを1つ選んでください。

「読書はあまりしないほうが良い。なぜなら、読書量が少ない人は、ちょっといい本に出会えると、非常にいい本に出会ったという印象を持てるが、読書量が多いと、いい本にも満足できなくなるからだ。」

- A) いい本に出会えると必然的に読書量が増えていくから。
- B) 読書量が少ないといい本に出会う確率が低い。
- C) いい本に満足できなくなるのは、その人の感受性に問題がある。

答え B)

【評価項目⑥】 相手が提示している意見や主張は、一般的に妥当なものとして受け入れられているかどうかを判断して聞き取る

問7 読み上げられる意見のうち、最も妥当なものとして受け入れられるものはどれでしょうか。1つ選んで妥当だと思える理由を記して下さい。

- A) 2015年にWHOが行った調査によると、15～39歳の日本人の死亡率の中では自殺が一番多い。自殺予防のために、私たちは、定期的にカウンセリングに通うなどしてストレスを軽減させるべきである。
- B) 2014年に国立ガン研究センターが行った調査によると、ガンの死亡率は日本人の死亡率1位であるという結果が出たので、私たちは生活習慣に一番気を付けるべきである。
- C) 2016年に厚生労働省が行った調査によると、交通事故の死亡率は全体の6位である。だが、車は通勤や通学に使うなど使用頻度が高く、また乗ってなくても事故にあう可能性がある。よって、私たちは車に一番気を付けるべきである。

答え A)～C) (それぞれの受け取り方によって妥当性は変わる)

- A) 今の年代で自殺が一番多いのであればそれに気を付けるべきであるから。
- B) 日本人のトップの死亡率なのであれば、健康に気を付けるべきであるから。
- C) 自殺やがんと違って、車は乗っていても、乗ってなくてもいつ自分の命が脅かされるかわからないから。



### 3. 3 調査結果, 考察

事前, 事後のリスニングテストの結果を分析した(表7)。学習者には, プレテストの正答は伝えていない。また, 問題用紙は回収した。しかし, プレテストとポストテストが同じ問題であれば, 問題に慣れるため, ポストテストの正答率が高くなる可能性も考慮し, 問2, 3, 6は「批判的に聞くこと」の評価項目(表4)を元に作り替えた(表6)。なお, 問7はどの選択肢を選んでも正解としたため, 表7のリスニングテストの結果には載せていない。

表7 リスニングテスト結果(※は, プレとポストで別問題)

	事前の正答者数(29人)	事後の正答者数(29人)	両側検定
問1	18	24	p=0.1406 ns (.10<p)
問2※	29	20	p=0.0019 ** (p<.01)
問3※	7	20	p=0.0014 ** (p<.01)
問4	16	25	p=0.0195 * (p<.05)
問5※	28	13	p=0.0000 ** (p<.01)
問6	27	28	p=1.0000 ns (.10<p)

リスニングテストの結果を見てみると, 事前と事後で同じ問題を出題した問1, 問4, 問6のうち, 問4は正答者数が有意に上昇していることが分かる。よって, その問題の評価項目である, 「意見や主張を支える根拠として挙げられる事実に, 過不足がないかどうかを判断して聞き取る」ことの力が上昇したと言える。

ただ, 問題文を事前と事後で変えた問2, 問3, 問5は正答者数の増減が同じではなかった。それは, プレテストとポストテストで難易度に差があったからだと考えられる。つまり, 今回行ったリスニングテストは, 問題文を事前と事後で変えたところは評価として妥当性に欠けると考えられる。同じ難易度の問題を2種類用意することで, 評価としてより妥当性の高いものにしていく必要がある。

## 4 調査(2)

### 4. 1 目的

ディベートの試合過程において, 学習者に「聞くこと」の力がついていく学習過程を, フローシート, 発話記録によって検証し, 明らかにする。

### 4. 2 調査方法

#### (1) フローシート記述

立論, 質疑, 反駁といった議論の全ての流れを記録する用紙であるフローシートを, 表4の「批判的に聞くこと」の評価項目をもとに分類し, 分析する。

#### (2) 発話分析

ディベートの試合において, 相手の立論や質疑応答から, どのような質問や反駁をするかということを, 味方同士で話し合う時間である「作戦タイム」中の発話と, ジャッジが勝敗を決めるための「ジャッジを考える時間」中の発話を分析する。また, 表4の「批判的に聞くこと」の評価項目をもとに分類し分析する。

### 4. 3 調査結果

#### 4. 3. 1 フローシート記述の調査結果, 考察

計4回のディベートの試合の前と後で, ディベートの動画を見ながら記述したフローシートの内容の変容を調査した。なお, 流したディベートの動画は事前と事後で同じであり, 「SNSを使用する際は実名登録すべし」という論題のものである。フローシートには主張, 根拠を記入する。ディベートの動画を見ながら記述するため, 全てを書くことはできない。つまり, 情報を取捨選択しながら, 主張, 根拠を聞き分けなければならないので, フローシートの分析については, 事前と事後の主張, 根拠が記述されているかという分析することで主張, 根拠を聞き分けられているかという力を分析することができると考えられる。動画の中のディベートの立論において, 主張は2つあり, それ

に伴い根拠も2つある。それが肯定側、否定側とあるため合計で4つのポイントを動画の中から書くことができる。ある学習者の事前と事後のフローシートの記述を下に記す。なお、事前と事後において同じ学習者のフローシートを抜き出してある(図1, 2)。

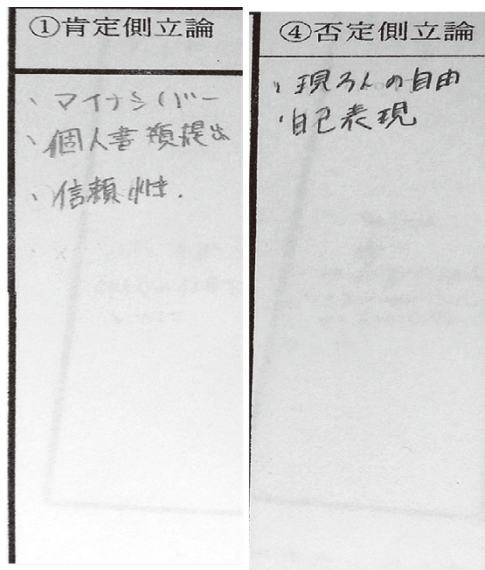


図1 事前のフローシート記述

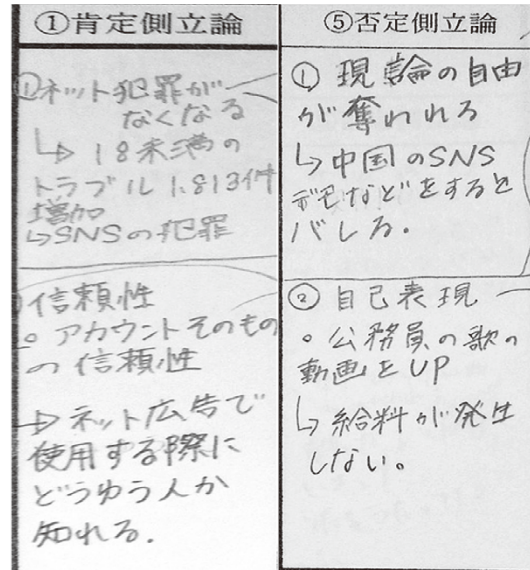


図2 事後のフローシート記述

図1を見ると「肯定側立論」において「信頼性」などと主張を掴むことができているが、その主張の根拠となることを聞き取れていない様子が見える。また、「否定側立論」においても「現論の自由」と「自己表現」と2つの主張は聞くことができているが、根拠は書いていないことが分かる。

だが、ディベートの単元の終わりに実施したフローシート記述では、「肯定側立論」において「ネット犯罪がなくなる」「信頼性」の両方とも主張を聞き取り、フローシートに記述できていることが分かる。また、「ネット犯罪がなくなる」を支える根拠の「トラブル1813件」を記述できているだけでなく、「信頼性」の主張を支える根拠である、「ネット広告で使用する際にどうゆう人が知れる」と記述できていることが分かる。そして、「否定側立論」においても、主張である「現論の自由が奪われる」を聞き取ることができ、その根拠である「中国のSNSデモなどをするとバレる」を記入できている。また、もう1つの主張である「自己表現」という根拠の「公務員の歌の動画をUP」を聞き取り、記述できていることが分かる。つまり、事前のフローシートでは主張しか聞き取れなかった学習者が、ディベートを実際に行うことにより、主張を4つ聞き取るだけでなく、根拠も4つとも聞き取れるようになっていくことが分かる。このことから、ディベートによって主張、根拠を判別しながら聞き取ることで、特に根拠を聞き取ることができるようになったことが分かる。

また、下に「根拠を4つ全て記入することができた学習者」の事前と事後のそれぞれの人数を表8に示す。

表8 根拠を4つ全て記入できた学習者

	事前(29人)	事後(29人)
根拠を4つ全て記入できた学習者	4人	22人

この表から、事前において根拠を4つ全て記入できた学習者は4人であるが、事後では22人と増えていることが分かる。つまり、ディベートの実践は「根拠を聞き取る能力」の上昇に有効だといえる。

#### 4. 3. 2 発話分析の調査結果、考察

ディベートの論題は「SNS使用の際には実名登録をすべし」という内容である。表3のディベートのタイムテーブルに示した作戦タイム、およびジャッジを考える時間の際の発話を分析していく。

表9 ディベート4回目における否定側が反駁の内容を考えたときの「作戦タイム」中の発話

学習者a：発言に責任が生まれるって  
 学習者b：実名でも言っている人はいるから  
 学習者c：芸能人は本名じゃん、悪意がなくて、発言しても炎上する人はいるじゃん  
 学習者b：相手（SNSを実名で使っている人）次第だよな  
 学習者c：そういうこと

表9は2班の作戦タイム中の発話である。このグループは第2回のディベートの際に、肯定側でディベートを行っており、否定側が「個人情報流出する」と主張し、それを支える根拠は「載せた写真で本人が特定される」ということに対して肯定側として反駁をする際に、反駁ができなかったグループであった。

今回の発話は、ディベート4回目で見られた発話であり、このグループは否定側である。肯定側が「発言に責任が生まれる」と主張し、それを支える根拠として「総務省のアンケートによると（実名のSNS使用では）軽い冗談が4.7%なくなる」と挙げていることに対して否定側から反駁をする前の作戦タイム中の発話である。

「実名でも言っている人はいるから」という発話と、「芸能人は本名じゃん、悪意がなくて、発言しても炎上する人はいるじゃん」という発話から肯定側の根拠の「軽い冗談がなくなる」という言葉を聞き取った上で、「本名の芸能人で悪意がなくても炎上している」と判断していることが分かる。つまり、肯定側の根拠について「不足している」ところを聞き取ったといえる。第2回目のディベートでは、反駁ができなかったこのグループが、ディベートを重ねていくうちに「不足している」ところを聞き取れるようになったことが分かる。この「聞くこと」の力の評価項目（表4）と照らし合わせてみると「④意見や主張を支える根拠として挙げられる事実に、過不足がないかどうかを判断して聞き取ること」に当てはまると考えられる。

次の発話記録は、6班がディベート1回目で初めてジャッジを行ったもの（表10）と、ディベート4回目で2回目のジャッジを行ったもの（表11）である。

表10 ディベート1回目におけるジャッジを考える時間中の発話

学習者d：でもこれさ鍵かけてもさ名前って消えなくない  
 学習者e：でもさ、皆が実名で登録するんだったらね、あーでもなんかやだよな  
 学習者d：やだね  
 学習者e：やだとかじゃないけど  
 学習者f：でも鍵かけてもさあれだよな、なんていえばいいの、んー

表10の発話は否定側が「個人情報流出する」と主張をし、肯定側が「鍵（特定の人にしかSNSを公開しないこと）を掛ければいい」と反駁をした際、ジャッジ側が勝敗を決めるためのジャッジのための話し合いをしているときの発話である。「でも鍵かけてもさあれだよな、なんていえばいいの、んー」という発話よりジャッジをすることにつまずいている様子が分かる。

表11 ディベート4回目におけるジャッジを考える時間中の発話

学習者d：先に嫌なことをするとかさ、それだけじゃないよね  
 学習者e：スーターとかさ  
 学習者f：そもそも発生する確率も低いよね  
 学習者d：うんうん  
 学習者e：確かにその通りだけど、全部がそれで発生してるわけじゃないよねってしよう  
 学習者f：全部防げるわけではないよね

表11の発話は否定側が「嫌がらせを受ける可能性がある」と主張し、肯定側が「嫌なことを自分がしなければいい」と反駁をしていることをジャッジしようとグループで話し合っている際の発話記録である。「そもそも発生する確率も低いよね」「確かにその通りだけど、全部がそれで発生してるわけじゃないよねってしよう」「全部防げるわけではないよね」という発話から、肯定側が反駁で「嫌なことをしなければいい」と言っていたが、嫌なことをしたという原因が全てではないことを指摘していることがわかる。このグループは第1回目でジャッジすることにつまずいているが、第4回目において「嫌なことをしたということが全てではない」とジャッジしており、肯定側の反駁につい



て「不足している」ところを聞き取ったといえる。この「聞くこと」の力の評価項目（表4）と照らし合わせてみると「④意見や主張を支える根拠として挙げられる事実、過不足がないかどうかを判断して聞き取ること」に当てはまると考えられる。

## 5 結論

本研究はディベートを行い、評価として用いるリスニングテストの妥当性の検証をすることと、学習者の「聞くこと」の力がどのように向上しているかを明らかにする研究であった。リスニングテストでは、プレテストとポストテストで変更しなかった問題では、正答者数に有意な上昇が見られた。そしてそれから、批判的に「訊くこと」の評価項目である「④意見や主張を支える根拠として挙げられる事実、過不足がないかどうかを判断して聞き取ること」の力がついたことが明らかになった。しかし、問題を事前と事後で変えたところについては正答者数の増減が同じではなかったため、「聞くこと」の力の評価として使うには妥当性に欠けることが明らかになった。また、フローシートの分析により「根拠を聞き取る」力がついていることが確認され、発話分析からは「意見や主張を支える根拠として挙げられる事実、過不足がないかどうかを判断して聞き取ること」の力が身につけていることが分かった。つまり、ディベートの実践は「根拠を聞き取る」力、「意見や主張を支える根拠として挙げられる事実、過不足がないかどうかを判断して聞き取ること」の力の向上に寄与している可能性があることが分かった。

## 6 今後の課題

リスニングテストの問題の質を高めていき、評価として活用できるようにしていく必要がある。また、今回「聞くこと」の力の検証のためにフローシート、発話分析を行ったが、多種多様な方法で「聞くこと」の力を測っていく必要がある。また、「批判的に聞くこと」の評価項目を使用した今回の結果で向上していることが明らかになったのは「意見や主張を支える根拠として挙げられる事実、過不足がないかどうかを判断して聞き取ること」の力のみであった。よって、ディベートの実践を重ね、発話サンプルを多くし、有効である他の「批判的に聞くこと」の力の検証もしていく必要がある。

## 引用及び参考文献

- (1) 文部科学省：「高等学校学習指導要領解説 国語編」, pp.44-45, 2018.
- (2) 滝浪常雄：「国語科における「話すこと・聞くこと」の指導の課題」, 安田女子大学紀要第41巻, pp.207-216, 2013.
- (3) 神田恵美子：「高等学校における「聞くこと」の指導の活性化を目指してーリスニング評価テストを通してー」, 早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊20号, pp.173-183, 2013.
- (4) 高橋俊三：「講座音声言語の授業 第2巻 聞くことの指導」, 明治図書, pp.202-203, 1994.
- (5) 尾木和秀・町田守弘：「国語科指導開発辞典」, 月刊国語教育, pp.210-211, 2008.
- (6) 石川直美：「インタビュー：「聞く力」をつける学習活動の試み [国語科]」, 研究集録／東京学芸大学附属大泉中学校 第41巻, pp.1-14, 2000.
- (7) 梅下敏之：「聞くこと・話すこと」の学習指導：「問答」のばあい」, 国語教育研究第26号, pp.660-672, 1980.
- (8) 日本ディベート協会：「教育ディベートとは」, <http://japan-debate-association.org/debate/academic-debate> (閲覧日：2019年11月16日)
- (9) 前掲書(3)：pp.203-209.
- (10) 渡邊博之：「自ら学び自ら考える授業の工夫：国語科および課外活動におけるディベート学習の場合」, 国語教育研究, pp.115-116, 2016.
- (11) 前掲書(4)：pp.203-209.

# Effectiveness of Improving Listening Skills Through Debate

Shogo NISHIOKA\* · Fumihiko KATAGIRI\*\*

## ABSTRACT

In order to verify that the practice of debate is effective in improving the ability of “listening”, we analyzed the listening test, the description of the flow sheet that notes the content of the debate, and the utterances during the tactical time which is the time to think about questions and rebuttals, and the time when the judges considered to decide the outcome. Regarding the created listening test, although it was revealed that a part of the evaluation items of “critically listening” was significantly increased, there was a large difference in the number of correct answers when the question was changed before and after. In addition, the flow sheet description shows an improvement in the ability to “understand the grounds”, and the utterance analysis shows that the other party is lacking. There was an improvement in “judging and listening”, and it was partially clarified that the debate is effective in improving the ability of “listening”.